



森ボラ 通信

第133号 2013年6月20日発行
NPO法人 北海道森林ボランティア協会

URL <http://www.shinrin-npo.info/>

札幌市豊平区平岸1条1丁目9-6 ラルズビル3F

Tel. (fax.): (011) 816 - 7010

E-mail: hshinrin2002@nifty.com

トピックス

◆ 津波被害を受けた海岸防災林の復興について

5/31～6/5 で今年も「森は海の恋人植樹祭」への参加、および海岸防災林の復興状況について現地を訪れ、確認してきました。ここでは海岸防災林の復興状況について報告します。

今回も岩手県陸前高田市の高田の松原を6/3に訪れました。ここは「奇跡の一本松」のみが注目され、6/3に行った際にも丁度この一本松のレプリカの取付け作業が行われているところでした。でも7万本あったとされる松原をどの様に復旧するのか？ などの話はまだ一切出ていないようです。この一本松の事が完了しなければ、海岸林については進まないようです。但し、海岸では防潮堤建設が確実に進められています。一方、市街地はガレキの除去は進みましたが、具体的な街の復興についてはスタートしていません。

6/4には宮城県の海岸林を訪問。ここ仙台平野のクロマツ林は伊達政宗が青葉城築城および城下を建造するために阿武隈川と名取川の間に運河を開削（貞山堀）し、運河と海岸の間にクロマツを植栽したのが始まりで、その後、飛砂・潮害・高潮対策として植栽が進められ、保護されてきました。藩制時代以降、今日に至るまで造成・生育されたマツ林はおおむね200～600mの幅・長さ7kmで沿岸に沿って良好な景観と保安林としての機能を果たしてきました。しかし、この海岸林も2011年の津波でその殆んどがなぎ倒され・折られてしまいました。僅かに残ったマツ林も約半数は枯れています。

このような状況の中、この地域では昨年からの海岸林を復興させる動きが幾つか出てきています。その一つが岩沼市の『千年希望の丘』の整備計画です。震災により発生したガレキ（再生資源）を活用して丘を造り、植樹することで津波の威力を減衰・分散させると共に、避難場所や生物多様性の拠点にしようとするもので、津波時に避難可能な高さ10～15m、直径70～100m程度の台形円



岩沼市の『千年希望の丘』の試験地

錐丘形を海岸に15基程度築造するというものです。現在はモデルケース（写真）としてガレキの上に土を盛り、タブノキ・スダジイ・シラカシなど20種程の広葉樹を植えて試験が行われています。ここは、1年前にも見ましたが今年は雨が少ないこともあり、植えられた木々の元気がいま一つでした。

この日の午後は、（公財）オイスカの吉田氏の案内で、横浜で行われていたアフリカ開発会議にきていた記者4名と共に、仙台空港



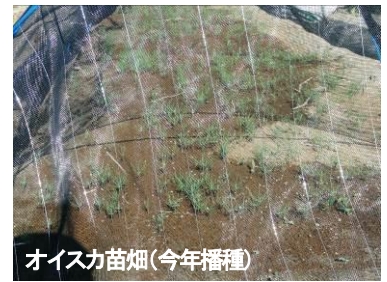
オイスカ植栽予定地の造成工

の東の海岸では林野庁による「みどりの防災林」再生プロジェクトの一つとして（公財）オイスカの支援による植栽が予定されている植栽地造成の状況等を見せて頂きました。その海側では現在高さ7mの防潮堤の建設も進められています。陸前高田市の状況と比較するとかなり急ピッチで種々

と工事が進んでいるように見受けられました。植栽地の造成は、まず再生資源を活用した植生基盤をつくり、その上に盛り土を3.5m行う。これはクロマツの根が伸びても最大3.5mということで決められたとのこと。このオイスカの植樹に使われるクロマツの苗は植栽予定地から車で10分程の苗畑で昨年から育成されています。この苗畑は昨年・今年と2年見せて頂きましたが、昨年播種されて植え替えられた2年苗の生育状況は生長の良いところ、悪いところが固まりとなっており、枯れているものも結構ありました。



オイスカ苗畑(2年苗)



オイスカ苗畑(今年播種)

今年播種されたものもネットの中で漸く生長をはじめたところですが、ここからどの位の苗が植栽に使うことが出来るのでしょうか？



荒浜地区の植栽地(盛土)



防風柵が随所に置かれている

仙台港に戻る途中、今回最後の訪問地として仙台市若林区荒浜地区で既に昨年11月より植栽が始められた「みどりの防災林」再生プロジェクトの状況を見てきました。

ここでは十数団体が植栽に参加していますが、各団体各々の思いの苗が植えられていました。高さ10cmにも満たない苗から、50cmもの大きな苗、植栽苗の乾燥を防ぐ為の幾つかの試験も行われているような状況です。私共が知っているところでは、ホームック(株)が「カミネッコン」を使った植栽を行っていました。また、この地域は非常に風が強く、特に春先の山風が風速30m/時以上にもなるということで、植栽地にはエリモ岬の植栽で使われたのと同様の防風柵(間伐材使用)を置かれていました。

この先、どの様に生長していくのか見守りたいと思います。(文・荻田)

◆ 北海道大学 苫小牧研究林見学会 (5月29日(水)・参加者18名)



苫小牧研究林は1904年(明治37年)北海道庁所管の国有林が札幌農学校に所管換えとなり、札幌農学校演習林として設立されたのが始まりです。

同研究林は協会設立前の2001年に一度見学しているが、今回は台風被害地を主体に広葉樹林等について顧問の松田彊氏、元スタッフの船越三朗氏、技術職員の小宮圭示氏にご説明・案内をして頂いた。

苫小牧研究林は標高5~90mのほとんど起伏のない台地で、約20mの火山灰で覆われ、その上に5~10cmの極めて薄い表土が堆積し極めて水はけの良い所です。総面積2,715haの約1/3ずつ天然林、二次林、針葉樹の人工林が占めています。

当初はカラマツ、トドマツ、エゾマツなどの針葉樹化を進めていたが、寒さと先枯れ病などで枯れた跡地に広葉樹が進出し二次林を構成している。(積雪が少なく、土壤凍結でササが低く分布が少ないことが幸いしている。)

1954年の洞爺丸台風で南西の風を受け甚大な被害を受け、風に強い森作りを意識したエゾマツ造林地(列植え、巢植え)でも、2004年の台風で同じ様な南西の風を受け被害を被っている。また、ここの土壤に関係すると思われるが、本来、深根性で直



根が出ているはずのミズナラの倒木には直根がほとんど無く驚きいった。基本的には、台風の被害を皆無にすることは出来ないが、早い時期から除間伐を進め、根を広く這わせ根と地上部のバランスを良くすることで倒木を少なくすることが大事であろう。

また、ここの裸地では晩霜害が激しく、1.5 m以下のトドマツは特に受けやすく、次にエゾマツが受けやすく、アカエゾマツはほとんど受けない。ただし、エゾマツ等のトウヒ類は浅根性で風に弱い欠点があるなど支笏湖周辺の地域共通の貴重な情報も得ることができた。

ここの天然林はミズナラ、アオダモ、カエデ類、カンバ類、ヤチダモ、シナノキなどの広葉樹が多く、その中にエゾマツ、トドマツが散生している。変わったところでは、シウリザクラ、ミヤマザクラなどウワミズザクラ類も多く自生しており、烏柵舞の自主地域も同じような傾向を示している。また、リスが母樹から数百mも離れた所に運んだ種から自生したゴヨウマツの散生しているところもあり、小動物散布の広さに驚きいった。等々、枚挙にいとまがないが、自然はそう簡単なものでないとの恐ろしさとまだまだ捨てたものでないとの再生力の豊かさに感じ入ったと同時に、どのような方法で手助けできるか難しい課題を突き付けられた気がする。また、早い時期に再訪しその解決策を見つけないといけないものである。

最後になりましたが、ご説明・案内をして頂いたお三方にお礼を申し上げますとともに、今後ともご指導をお願いいたします。(文・和田)

■ 活動報告

◆ 2013年度花王・みんなの森づくり助成目録贈呈式に参加

花王(株)と(公財)都市緑化機構の主催で5月14日東京花王本社にて開催されました。

大人と子供の学びの森「幌南の森」体験学習支援が環境教育活動分野で北海道森林ボランティア協会が助成されましたが、今年度は応募172件中15団体に向こう3年間の助成を戴けます。

幌南小学校との係りは藻岩山札幌市民スキー場に接した幌南の森をフィールドとして2006年から年2回4年生、6年生を対象に自然学習の支援としてやって来ました。低学年はネイチャーライン遊びや山道散策で自然に親しみ、6年生は樹名板に樹木の名前、由来、特徴等を書いて設置し、森の仕組みを学び、巣箱掛けを通して森の生き物の勉強をしています。今後更に北海道林業技師会とタイアップしながら子供達の成長のお手伝いをして行きます。(事務局)



◆ 第9回北海道新聞ぶんぶんの森植樹祭

5月18日(土)ぶんぶんの森でボランティアの皆さん64名が集まり680本のトドマツが植えられました。下は2歳の女の子がママに手を引かれ一緒に苗を植えている光景はこの森が20年後にこの子の様に成長してくれる事を予感しました。今回の地拵えは表土を残した事により、栄養価の高い腐葉土が従来よりも十分に確保されているので今後苗の成長が楽しみです。2004年の台風被害にあった約7haに2009年の第1回から約6,000本を植栽しました。



この9回をもって植樹活動は終わりますが、我々協会員はこれから数年間苗の管理として蔓切り等を含めた下草刈り、枯死苗の調査とその補植作業(枯死苗率が5%以上の時)等の育林管理を年2回の目安で行って行きます。(事務局)

■ 今月の幹事会

出席者：市山・大窪・荻田・樫棒・酒井・佐野・津金・釣井・西野(榎)・矢澤

- 1 2013年7月、8月スケジュール・・・幹事会7月5日(金)
- 2 陸被災支報告・・・「森・恋植樹祭」と「みどりの防災林」再生プロジェクトの状況(P1)。
- 3 澄川受光伐、間伐について・・・整理伐施業は小区毎に樹幹調査をしながら除伐して行く
- 4 森林・山村多面機構發揮対策の方針・・・助成委員会を開いて検討する
- 5 花王・みんなの森づくり事業・・・ヘルメット125個準備完了。
幌南小学校の協議報告・・・野外学習 7/4(4年生)、7/17(6年生)に実施。
- 6 「区P連親子ふれあいday」・・・7/27 盤溪/酒井・湯澤・西野(榎)・西野(澄)・佐野で対応。
- 7 植栽関連
6月8日・・・青山当別オイスカの森は刈り払い機部隊として支援
烏柵舞の森人力地区の対応と今後の植栽計画・・・9月に標準地での植栽調査予定
6月12、13、27、28日・・・北海道CGCの森下草刈り・オッパイ山の植生観察
- 8 委員会報告 ・広報委員会(7月ホームページトップ更新予定) ・業務委員会(月度計画作成)
・助成委員会(ふるさと支援)

■ 活動履歴

活動日	行事・活動地	参加数	活動内容
5月13/14日	北海道CGC・烏柵舞	17/14	補植・植栽
5月16日(木)	藻岩山幌南の森	7	遊歩道整備・植生観察
5月17日(金)	澄川	15	作業道整備・製材
5月18日(土)	支笏湖ぶんぶんの森	10	第9回道新ぶんぶんの森植樹祭
5月21日(火)	澄川	18	作業道整備・烏柵舞の準備
5月22/23日	支笏湖烏柵舞の森	19/19	人力地存地区整備・標準地設定
5月27日(月)	澄川	13	作業道整備
5月29日(水)	北大苫小牧研究林	18	研究林見学会
5月31日(金)	有明の森	11	笹刈り・山引き苗の植栽
6月1日(土)	アイケンの森・澄川	9	指標竹採取・キャリコ橋安全祈願
6月5日(水)	澄川	11	作業道整備
6月7日(金)	ラルズビル	9	定例幹事会
6月8日(土)	当別青山オイスカの森	4	下草刈り支援
6月10日(月)	澄川	16	作業道整備・苗畑整備
6月12/13日	北海道CGCの森/リンゴ園	11/11・2	下草刈り・オッパイ山植生観察/摘果
6月14日(金)	有明の森	3	区画確認作業

*リンゴ園活動5月25日(土・7名)/6月3日(月・6名)/6月4日(火・6名)/6月11日(火・4名)/6月15日(土・2名)。

*尚、5/20(月)、5/28(火)のりんご園作業は中止。

◆ 春季恒例の清掃活動・・・澄川環境林

5月21日(火)15名の会員によって恒例の春のゴミ収集作業を行いました。澄川環境林東側道路沿い約1kmに渡って冬場に廃棄された大型粗大ゴミや家庭内の生活ゴミは想像以上に多く、一部の人の道德心の低さに嘆きを覚えました。この行為に憤りを感じながらの作業となりましたが、継続は何かを変えて呉れると信じたがらの一日でした。

札幌市豊平清掃事務所の皆さんには収集したゴミの撤去有難うございました。その報告ではテレビ4台、冷蔵庫1台、プロパンボンベ1個、大型車燃料タンク1個、タイヤ16本そしてその他ペットボトル、子供の玩具、寝具類等などのゴミは400kgを超えていたとのことでした。(文・大窪)

